

(別紙)

令和5年度(令和4年度からの繰越分)障害福祉分野のロボット等導入支援事業 (施設等に対する導入支援分) 事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成してください。(一体的に利用している機器を除く)

自治体名 埼玉県

【基本情報】

フリガナ	シャカイフクシホウジンミヌマフクシカイ
法人名	社会福祉法人 みぬま福祉会
フリガナ	タイヨウノサト
事業所名	太陽の里
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	
障害者支援施設	
職員数(常勤換算数)【「従事者の1ヶ月の勤務時間」/「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休・休職は除く)】	
46.0 人	

(1) 主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別: 移乗介護 排泄支援 入浴支援
 移動支援 見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数)

(2) ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (C×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)				
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	40 人	6,000 件	72,000 件	5 分	240,000 人時間	150 時間
	2 排泄介助・支援	0 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)	0 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	#DIV/0!
	4 行動上の問題への対応(※2)	0 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	#DIV/0!
	5 その他の直接介護	0 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動	0 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	#DIV/0!
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)	0 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認	0 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	#DIV/0!
	9 その他の間接業務	40 人	19,500 件	234,000 件	20 分	3,120,000 人時間	1,950 時間
			25,500 件	306,000 件	25 分	3,360,000 人時間	#DIV/0!

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援
 ※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等
 ※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>B.ひと月当たり発生件数の算出方法

1.移動移乗体位交換 1日約20回×利用者10名×1か月約30日=6,000件
 9.その他間接業務 1日約10回×利用者65名×1か月約30日=19,500件

<※2>D.1件当たりの平均処理時間の算出方法

1.移動移乗体位交換にかかる時間3分~8分
 9.その他間接業務時間 ヒヤリハット報告書作成10分~15分 事故報告書作成10分~30分 緊急受診等60分~120分等 家族対応時間10分~60分

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (C×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)				
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	40 人	6,000 件	72,000 件	5 分	240,000 人時間	150 時間
	2 排泄介助・支援	0 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)	0 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	#DIV/0!
	4 行動上の問題への対応(※2)	0 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	#DIV/0!
	5 その他の直接介護	0 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動	0 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	#DIV/0!
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)	0 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認	0 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	0 時間
	9 その他の間接業務	40 人	11,700 件	140,400 件	20 分	1,872,000 人時間	1,170 時間
			17,700 件	212,400 件	25 分	2,112,000 人時間	#DIV/0!

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※3>B.ひと月当たり発生件数の算出方法

1.移動移乗体位交換 1日約20回×利用者10名×1か月約30日=6,000件
 9.その他間接業務 1日約6回×利用者65名×1か月約30日=11,700件

<※4>D.1件当たりの平均処理時間の算出方法

1.移動移乗体位交換にかかる時間3分～8分
9.その他間接業務時間 ヒヤリハット報告書作成10分～15分 事故報告書作成10分～30分 緊急受診等60分～120分等 家族対応時間10分～60分

年間業務時間数想定削減率(%)

37.1%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

移乗サポートロボットを導入することにより、職員の身体的な負担が軽減されたため、これまで見受けられたヒヤリハットの件数が減少している。利用者の安全と職員の心身の余裕が確保されるため、ヒヤリハットや事故の防止のために割っていた業務件数を削減することにつながっている。

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

施設においてベッドからの移乗、車椅子からの移乗、トイレからの移乗、など身体障害の方々を介助する場面が多い。その場面での転倒による事故防止や職員の腰痛対策にロボット機器等の導入で安全性が高まり、腰痛対策にもなり介助の場面で有効活用している。

(5)今後の課題

身体障害や脳性麻痺による肢体不自由など、年齢を重ねる毎に進行していく場合が多い。施設開所当初みんなが元気に活動重視でやってきていたが、開所して30年を過ぎると身体的に進行し様々な疾患に罹ってしまいその後遺症から身体障害や麻痺が進行してくる場合がある。施設の建物の設計や設備の変更がむずかしい。その場合機器に頼るしかないが、十分な広さを確保できないとその機器の使用も難しい場合もある。今回のロボット導入後洗面台等の設備変更も検討しなければならない。また、障害の進行に機器や設備が追いつかないこともある。

(6)気づき等について

(7)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減	無
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

削減額(円/月)	
職員の賃上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当(※1)	
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。